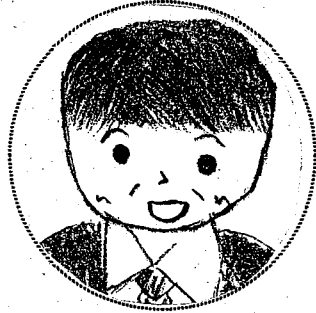


学校だより 希望の鐘

ひとつのぼんぼんはちどしかにいらぬ



八戸市立 小中野中学校

平成30年12月21日(金)

No.141 文責：校長
工藤聡

「待つことをおぼえ、がまんすることに慣れる」冬休みに

今日で2学期が終わります。8月22日の始業式から、122日が経過したことになります。みなさんは気がついていられるかどうかはわかりませんが、122日分成長したことになります。明日からは、24日間の冬休みに入りますが、私は「待つことをおぼえ、がまんすることに慣れる」24日間であれば…と願っています。

3日前の全国紙の投書欄に、40歳代女性の次のようなものが掲載されました。

子どもの頃、12月は待ち遠しくて仕方がなかった。だが今は、仕事と家事、子育てという毎日の忙しさ、そこに師走を迎え余裕がない。変だな。世の中便利になったのに、なぜこんなに忙しいのか。考えてみた。一昔前ならいろんなことに手間がかかって当たり前だった。ご飯を作るのも、写真が出来上がるのも、誰かと待ち合わせする時も。でも便利な今は、心が待てなくなっている。20年子育てをしてきたが、待つことを知らない子どもたちは今後どんな生き方をするのだろうか。待つはずの時間はスマホとにらめっこ。ロスタイムはなく、完璧な無駄のない毎日。これが新時代の幸せな形なのだろうか。苦しくはないか？

みなさんのお母さんくらいの方なのではないかと思えます。「待つ」ことは、その間、いろいろなことを考えることができます。待っている間に、自らの決断を思い直すこともできます。「待つ」時間が長ければ長いほど、それを手に入れた時の喜びは大きくなります。美味しいと評判のお店の行列に並び、ようやく食べることができた時、美味しさにプラスして「待つ」という行為が秘密の「味付け」となって、一層その味を引き立てるのだと私は思います。逆に待つことを知らない人間は、「待たないこと」が当たり前になりすぎて、少しでも待たされると、それがまるで意地悪でもされたようにイライラするようです。中にはキレて、暴言を吐いたり暴力にはしてしまう人がいるのは、子どもに限らず、大人でもいっぱいいるようです。

「待つ」ことは「がまんする」ことでもあります。年末年始は、クリスマス・大みそか・お正月とイベントが続き、日本国中が浮き立つ時期です。みなさんの中にも楽しみにしている人がいっぱいいると思います。加えて、学習会や部活動はあるものの、普段に比較すると、絶対的に自由になる時間も増えます。気持ちもゆるんで、普通では考えられない行動に走る中学生も出てしまうのは、がまんできなくなってしまうからです。

そこで、明日からの冬休みを迎えるみなさんに、サン・テグジュベリという人が書いた「星の王子様」という本に出てくる名言の中の1つを贈ります。それは、「きちんと決めることで、普通の1日が特別な1日になる」という言葉です。きちんと決めてあるからこそ、その通りに行動しようとするのでその1日はほかの日と異なる、充実した特別の日となっていきます。なんとなく適当に過ごすのではなく、前もって何をするか予定を決めてください。もちろんみなさんは計画を立てていると思いますが、毎日を計画通りに過ごさなくても私はいいと思います。でも、太い幹となるような重要な1日を何日か設けて、そこだけは絶対計画にしたがって過ごすことで、その日は普段とは違う特別な1日となり、他の日にも影響をあたえていくのです。また「ルールを決める」ことでも、普通の1日が特別の日になり得るのです。情報モラルや交通ルール、あるいは「万引きをしない」ことのような一般的な法令に則ったものから、自らに課した「お手伝い」をするといった家庭の決まり事もそれにあたります。

24日間、普通の1日を特別な1日とする1日を設けながら、「待つことをおぼえ、がまんすることに慣れる」冬休みにして、1月15日の3学期始業式は全員が24日分の成長がわかる、元気な姿を見せてほしいと思います。(終業式の校長式辞を編集しました。)



大谷翔平「イラッときたら負けだと思っている」

「希望の鐘 No.138」に大谷翔平選手のことを掲載しました。その時に、大谷選手についていろいろ調べたのですが、次のような記事もありました。

今、日本で最も語られることが多い野球選手が大谷翔平である。その彼に、日本ハムに在籍していた頃、インタビューしたことがある。「イラッとすることはないの？」という問いに対して、大谷はにこやかに「イラッときたら、負けだと思ってるんで」と答えてくれた。ああ、これが大谷という男なのだと思った。花巻東高校時代の恩師、佐々木洋監督が打者・大谷を象徴する場面として、こんなシーンを挙げたことがある。「ある試合で相手チームのサードが外野に回って、外野4人シフトをしかれたことがあるんです。そのとき大谷は、がら空きの三塁側にポンとゴロを打ったんです」そのときのあたりは、ショートへの内野安打になったそうだ。ムキにならない大谷。過去、日本でスラッガーと呼ばれるような人たちは、どんなシフトをしかれようとも、絶対に自分のスタイルを変えなかった。王貞治しかり、松井秀喜もそうだった。だが、大谷はいとも簡単に変化する。どこかに「遊び」があるのだ。いずれにせよ、イラッとししない大谷、ムキにならない大谷というのが、私の中での大谷をつかむ1つの手がかりとなっている。

世界のホームラン王である王貞治選手も、巨人やメジャーリーグで活躍した松井選手も、左バッターで、圧倒的に右方向に引っ張るバッティングでした。それに対して、相手チームは「王シフト」「松井シフト」といって、打球の飛んで来る右方向に守備の人を増やしました。万が一、左方向に打球を打たれてヒットになったとしても、バッティングフォームが崩れ、最終的に調子を落としてくれれば…というねらいもあったのです。それに対して、王選手も松井選手も、絶対に左方向に打つことはせず、頑固に自らの打撃にこだわりました。これに対して、大谷選手は臨機応変かつ柔軟に対応するスタイルのようです。メジャーに移籍した今シーズンも、確かロイヤルズ戦で、全体的に右よりだった「大谷シフト」の逆をつき、インコースのボールをレフト線に二塁打したこともありました。

明日からの冬休み、普段より圧倒的に家庭で過ごす時間が多くなります。学校ではよそ行き（ヨソイキ：改まった言葉や態度）の人も、家庭ではゆったり、ゴロゴロして、ご家族に「だらしない☹」とか「宿題（勉強）はやったの？」と小言を言われることも多くなることが考えられます。その時にイラッしたりムキになったりしては、ますます険悪（ケンアク：表情や性質がとげとげしくなること）になることは必然（ヒツゼン：必ずそうなること）です。そのような時、大谷選手を思い出し、見習ってみてはどうでしょうか。イラッときたら、いいことは一つもありませんよ。ムキになって口答えしても、逆効果ですよ。みなさん自身もそうですが、ご家族にも「いい冬休み」になるよう、中学生としての気遣いも大事です。

【今年最後のひとり言】

●先日、武道館付近の木を5本切りました。電線に接触していたり、虫が落ちて通行している人に迷惑をおかけしたことで、記念樹でないことを確認したうえで、専門の業者さんをお願いしたのです。伐採する現場を見に行きましたが、思わず1時間ほど見入って（ミイル：見とれること）しまいました。9人は、重機を操作する人、チェーンソーで枝を切る人、その枝を集める人、束ねてトラッスに積み込む人と、役割にそってそれぞれが別の動きをしているのですが、9人全員が連動して見事なチームワークで、全校生徒に見せたいほどでした。自らの仕事や役割の分担を果たしながら、チーム全体で同じ目的に向かって動く（活動する・働く）ことは、どんな場面においても、どんな集団であっても、ものすごく大切なことだということを強く感じた1日になりました。

●あと少いでクリスマスです。小中野中には、図書室の大きなもののほかに、玄関にもいくつかの折り紙のクリスマスリースが飾られています。図書ボランティアの方々を作ってくれたものですが、手作りの温かさが季節感をより引き立ててくれます。いつも、いつも、本当にありがとうございます。

●先日さがし物をしていて、机の引き出しを隅から隅まで見ていたら、チョコボールの銀のエンジェルが2枚出てきました。5枚集めないとおもちゃの缶詰はもらえませんが、もしかすると家にあと少しの人（4枚か3枚ある人）がいるようでしたら差し上げますよ。校長室に来てください。（何かいいことが別にあるかもしれませんよ。）

●今日の私の似顔絵は、年組の さんに描いてもらいました。目がクリッとしたかわいい似顔絵です。何日前に、 さんと さんが、家庭科の調理実習で作った「鱈のムニエル」を校長室に持って来てくれました。とてもとても美味しかったです。調理実習の物を食べられるのも、あと何回でしょうか。

●保護者の皆様、そして地域の方々、2学期も学校だより「希望の鐘」を読んでいただき本当にありがとうございました。よいお年をお迎えいただければと思います。

